

9月27日の泉北キリスト教会でのキャラバン伝道には、3教会から4名の兄弟が参加されました。礼拝は、リフォームされたばかりの小奇麗な1F 礼拝堂であった。(窓ガラスのぶどうの絵が印象的でした。)礼拝は、竹田弘美姉の司会、網井兄のギター伴奏による讃美で始まり、若い方々によるワーシップと続いた。この日のゲスト阿部克己師によるメッセージは、「望みを抱いて信じる」であった。その後、聖餐式が泉北教会の牧師菰田義光師の司式で持たれた。礼拝出席者は27名。40周年の2015年は菰田師が礼拝メッセージを月3回され、あとは年間を通しての招待牧師の記念メッセージと役員による証しがされている。礼拝後、キャラバン伝道隊の阿部秋人兄による腹話術「よきサマリア人」が演じられ、出席者を和ませた。ところで、泉北教会の歴史を宣教40周年記念誌「輝き40年」から拾い読んで見ますと、泉北教会は、1975年にサム・H・クラウド師ご夫妻によって始められた。しばらくして、泉北ニュータウン高倉台に土地を購入され、クラウド師と有志の数人の兄弟の手仕事で会堂が建てられたという。記念誌を読むと、40年間には、試練の時期を含め、泉北教会においては、直接招聘された先生のみならず、実に多くの教団の各教会の牧師先生、信徒の方々が、泉北の開拓伝道のために祈り奉仕して来られたことが解る。他方、泉北教会の宣教活動の中で海外宣教支援を抜かすことはできない。これまで、竹田弘美元宣教師(2000年~2003年)、浜名基弘ご夫妻(2009年~)とタイ宣教を支えて来られ、また教団に多くの奉仕者を送り出している。話はキャラバン伝道に戻るが、昼食後、「信徒による伝道・牧会」というテーマで交わりの時を持った。折しも、宣教40周年を迎えた泉北教会の歴史を振り返りつつの話となった。代表役員を、現在信徒の方がされていることに話が及んだ時、何回か牧師不在の試練の時期に、それは信徒が求めたものではなかったが、その試練を主からのものとして受け止め、負ってこられた重荷の重さに気付かされることとなった。そして、信徒主体の教会運営をせざるをえなかった。一方、姉妹の方からは、現在は教会に菰田牧師を迎えて、教会も婦人会も和やかな雰囲気になったとの感想もあった。教会を建て上げるには、牧師の働きも信徒の働きも、車の両輪のようにどちらも大切であることは間違いない。このテーマについては、菰田師から後日コメントをいただいたので紹介します。「牧師の務めは、牧師自身が、救われていない魂のために多くの犠牲を惜しまず、仕え、祈り、そのことに何よりの喜びを感じることです。また、その様な生き方を信徒の皆さんに見ていただいて、人生の最大の喜びが、救われていない魂のために祈り、仕えることであると、信徒の皆さんに伝えていくことです。」泉北教会は今、周辺ニュータウンの少子高齢化の影響も受けているようにも見えましたが、40年の歩みにおける主の恵みに感謝を献げ、40周年記念講演会(柏木哲夫先生)、40周年記念コンサート(森祐理姉)、40周年記念花見やボウリング大会を企画し、会堂をリフォームしてこれからも地域に積極的に福音を伝えていこうとする姿勢が見て取られ勇気付けられました。帰り際に、キャラバン伝道隊も加わって、駅前記念コンサートのチラシを配布して帰りました。



**\* 編集後記 \***

- ★昨年実施しましたアンケート調査報告を掲載。ご質問等ございましたら発行者にご連絡ください。
- ★皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行：日本メノナイトブレザレン教団 伝道委員会

〒563-0038 大阪府池田市荘園2丁目1-12 TEL:072-762-5731

発行者：田畑雅紀(伝道委員長) 編集者：河野和雄(広報担当)

# MB 伝道ニュース



## 開拓伝道のビジョンを語る【V】



杉 貴生師：福音聖書神学校校長

「開拓に出て行きたい。」これは牧師ならば一度は抱く夢ではないでしょうか。私は牧師になって20年以上になりますが、まだ開拓伝道は経験したことがありません。これまで既成教会での牧会の働きを通して多くの恵みを受けてきましたが、それでも開拓伝道への憧れのようなものが時々起こってきます。それは、ゼロから始めてみたいというチャレンジ精神のようなものです。もちろん開拓伝道はそんなに甘くはないと分かっているつもりですし、何よりも明確な強い召命感が必要です。困難に耐えうる強い精神力、効果的な戦略、牧師としての高い能力等も求められるでしょう。私から見るとまさにスーパー牧師です。そのような人材が、わが教団にも続いて輩出されることを願います。

しかし開拓伝道とはいつもそういうスーパー牧師によらなければ結実しないものなのではないでしょうか。私は違う意見を持っています。教会とは、そもそも教会によって生み出されるものだと思うからです。ここでの教会とは信徒の群れを指しています。「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」(マタイ 18:20)とイエス様は言われました。たとえ少数でもクリスチャンたちが集まればそれは教会です。開拓伝道はどのようなところからも始まりうるのです。例えば、MB 教会がない地域に引越しをされた兄弟姉妹が、その地域の別の群れに加わられるのも良いのですが、自分たちで集会を始めてみてはどうでしょうか。伝道委員会や母教会が協力して、年に何回かでも訪問して彼らを励まし、集会が拡大するにつれ支援も増やしていき、やがてある一定の条件をクリアすれば教団の公認の伝道所とされる、といった新しい仕組みを構築するというのも一案です。

神学校は開拓伝道のためのコースは開設しておりませんが、牧師を養成するだけでなく、一般の信徒の方々の霊的成長のために活用していただくよう門戸を広げています。現在多くの兄弟姉妹が聴講制度を利用してクラスを受講されるようになりました。また、この四月より通信制による信徒説教者課程も新設します。このコースは開拓伝道を支援するために設けられている訳ではありませんが、専任の牧師がいなくとも信徒の方々が中心となって教会開拓を行っていく一助とはなるだろうと期待します。

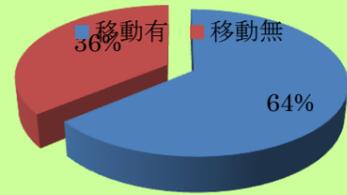
これまでの開拓伝道は、基本的に牧師や宣教師によって行われてきました。牧師の働きは重要であり、次代を担う新しい牧師たちの養成は不可欠です。しかし、信徒の兄弟姉妹の賜物がもっと活かされていく必要があると考えます。牧師は信徒の兄弟姉妹がもっと活躍できるように彼らを励まし、訓練し、働きを委ねていかなければなりません。実際に聖書で教えられている牧師の役割は「聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げる」(エペソ 4:12)ことだからです。

牧師が自ら開拓に出て行くというものいいでしょう。しかし、新しい地に出て行く(あるいは出て行った)兄弟姉妹を励まして、そこに新しい群れ、新しい教会を始めることも可能ではないでしょうか。

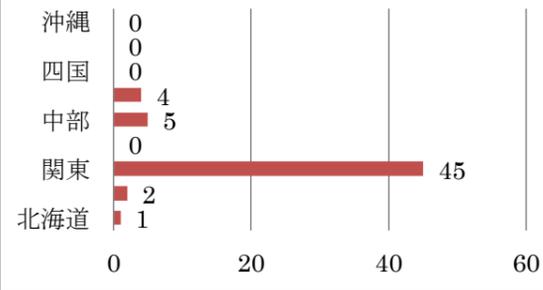
## 開拓伝道に関するアンケート調査結果

河野和雄兄：伝道委員会委員

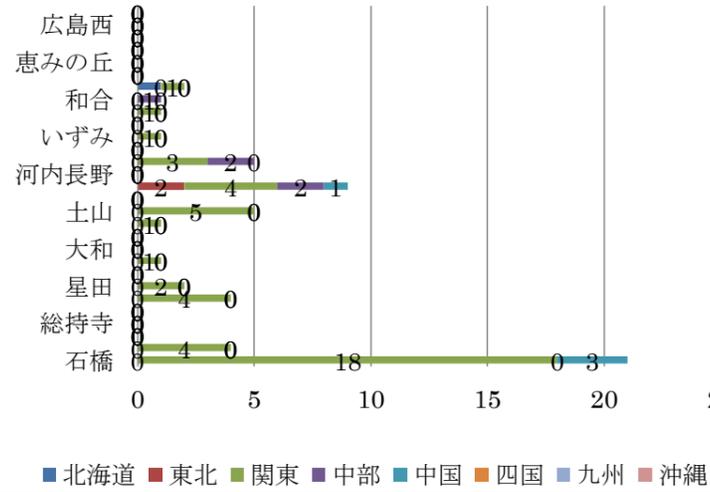
### 設問① 過去5年間遠方へ移動について



### 設問③ 移動先地域別人数



### 設問③-2 教会別地域別移動人数



### 設問④ 移動先の市町村

東京都、東京都江戸川区、東京都世田谷区、東京都葛飾区川崎市、千葉県船橋市、千葉県土浦市、埼玉県桶川市、佐久市、三沢市、長野県諏訪郡富士見町、長野県飯田市、岐阜県多治見市

## いずみホープチャペル宣教レポート(その5・最終章)【宣教DNAの継承】

田畑雅紀師：伝道委員会委員長

韓国からの短期宣教チームを受け入れてから6年目に、チームを送り出してください韓国大邱キャンパス・クルセード・フォー・クライスト(CCC)を訪問し、彼らの働きに感謝と励ましをする機会が与えられました。その後、継続して私たちも毎年韓国大邱 CCC と啓明(ケミョン)大学 CCC を訪問し、パートナーとしてこの日本宣教のミッションを大切に育てています。特に、2015の訪問では、前年に韓国の短期宣教チームによってイエス様と出会い、救われた青年が参加し、彼らによって蒔かれた種が実となっていることを共に喜びことができました。今では、春に私たちが韓国を訪問する時に、その年の夏に来る予定のリーダーと打ち合わせをし、チームに加わることに興味を持つ学生が起こされるように啓発をするようにしています。チームは受け入れ側の日本の教会のメンバーと事前に会うことで信頼関係が築け、私たちも彼らのビデオレターを教会に紹介することで、早い時期から祈りと準備をもって備えることができます。



今後は、いずみの教会の青年が、韓国 CCC によって受け継いだ宣教の DNA を継承するために、私たちも短期宣教として、日本国内はもとより海外の教会の支援のために働きができればと願っています。具体的には、10年の節目を迎える2017年には、現地教会の宣教の働きに仕えるための短期宣教チームを送り出すことを目標としています。マタイ28章19節の御言葉を教会が自ら体験し、仕えるという訓練によって、宣教の DNA が確実に

継承されると確信しています。「マタイ 28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。」

### ☆伝道委員会の開拓伝道ビジョンの考察について

アンケート調査結果から見ると、関東地区が突出して多くの移動先として計上されており、永住される方なのでしょうか？それとも有期限付きでの転勤でしょうか？永住される方が多くおられることで有ればその住居先にとの思いもあります。川崎市にはMB教団は恵みの丘キリスト教会があるので半径 30 km であれば 30~50 分程度での範囲で集まる事が可能と推測いたします。そうしますとそれ以外の地域を考え、埼玉・千葉方面も可能かと思えます。しかし宣教師・牧師を直ちに派遣する事は、現状において人員的、費用的に困難で有る事は間違いありません。現実的な可能性を考えるなら、関東地区に永住または長期(10年以上)滞在されるクリスチャンホームが必要となってきます。その様な方が今後出てくるのであれば、そのご家族の働きを期待する事で家庭集会からスタートすることができます。そのご家族が核となり必要により退職牧師又は現役牧師の派遣を行い、その働きをバックアップする事が考えられます。現在の北米MBミッションの方針を考えますと、従来のような宣教師主導の開拓伝道は困難と思えます。ですので、日本MBが主体となり、核となる信徒、支援する牧師、協力する宣教師のチーム伝道が、今後注目されてきます。今後の取り組みは、開拓伝道を始めようとする人材が起こされるために、教団として開拓伝道のビジョンを常に発信し続け、環境を整えていく事だと思えます。

\*北米に於いて、個人的に日本への宣教の思いを持った方々(コーリー・ギースブレクト師・ドリス師・ウェンディー師・ローガン&ハイディー・フォース師・アクションチームの若者等)

## 受け入れ教会募集のお知らせ

伝道委員会では、地域教会を訪問し、交流を通してお互いの伝道活動を励ます機会として、キャラバン伝道を毎年実施しております。新年度の実施に当たり、下記のとおり、キャラバン伝道隊受入れ教会を募集いたしますので、奮って応募くださいますようよろしくお願いいたします。

### 2016年度キャラバン伝道隊受入れ教会の募集

(趣旨)

伝道委員会主催のキャラバン伝道隊(5名程度)を受入れ、交流を通してお互いの伝道活動を励ます機会とする。

\*実施日程：受入れ教会と協議の上決定(年度後半予定)

\*実施内容：受入れ教会と協議の上決定(例；礼拝参加、トラクト配布等)

\*申込先等：5月末までに伝道委員長 田畑師(いずみホープチャペル)宛